埼玉県教育委員会　実践校：埼玉県立三郷北高等学校（全校生徒数：693人、実践研究の対象：第２学年225人）

①実践研究の趣旨･目的

埼玉県の消費者教育の現状として、消費者教育分野の指導に苦手意識を持っている教員が多く、外部人材を活用し、コーディネートする力が醸成されていないことがあげられる。また消費者教育の学習内容としては、持続可能な社会の構築に向けて、消費生活と環境を関連させて学習させるなど、消費者市民社会の担い手育成を目指して指導する必要がある。

消費者教育の充実に向け、限られた授業時間数の中で外部人材等を活用し、消費者市民社会の担い手育成を目指した効果的な学習プログラムの開発を目指す。

②実践内容

（１）教育委員会等での取組･工夫

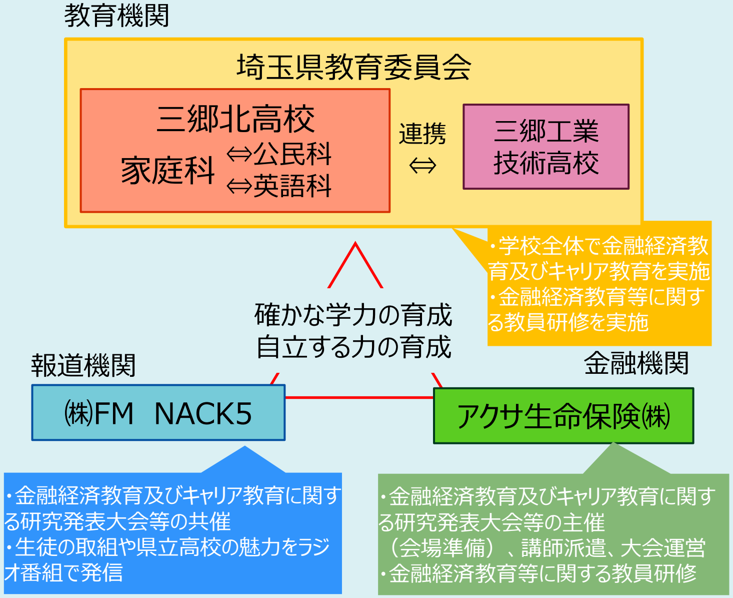
埼玉県教育委員会は、アクサ生命保険株式会社及び株式会社エフエムナックファイブと「確かな学力の育成･自立する力の育成」に係る連携協力に関する協定を結び、埼玉県の金融経済教育の発展及びキャリア教育を推進している。

今回は三者協力し生涯を見通した生活設計に関する研究発表会を実施した。生徒が生涯の生活設計について考察し、研究発表を行い、専門家からアドバイスをいただく一連のプログラムを通して、主体的に学び、自立した消費者の育成につなげた。研究発表会の様子やその過程については、株式会社エフエムナックファイブに協力いただきラジオ放送し、消費者教育の実践事例を広く紹介した。研究成果については、各学校が活用しやすいように県教育委員会のホームページに掲載し、周知を図る。

（２）実践校での取組･工夫

消費者教育を家庭科（家庭総合）のC（１）生活における経済の計画を中心に、衣食住等各単元に関連させることで、２年間の履修期間を通じて消費者としての権利と責任を生活者の視点から捉えられるように工夫している。また複数回、外部講師による授業を実施し、専門家の話を聞く機会を設けた。これらの取組から、生徒自身が社会の一員であることを自覚し、生活者としての視点を持つように工夫した。今回の実践では、①「生涯を見通した経済計画の必要性を“収入を得る＝働くこと“から考える」について、アクサ生命の協力の下、地元企業経営者による講話等から、お金の価値や働く意義を再認識し、どのような消費行動をとっていくかを考える機会を設けた。また、②「消費者トラブルが身近なところにあることを知ってもらうための、工業高校と連携した動画作成」では１年次から学習した消費者トラブルに関する知識も活用しながら、三郷工業技術高校と連携し、消費者トラブル防止のための啓発動画の作成した。

（３）校内の実施体制･外部連携



・１年次のライフプランに関する授業について、以前からアクサ生命と連携した取り組みを進めており、継続的にライフプランやお金に関して考える機会を設定する。
・他教科等の連携：英語コミュニケーションの教科書において扱われている食品の持続可能性に関連した単元と連携し、家庭科と関連させて実施することで、多角的な知見を持つ機会を設定した。

③実践の具体事例【埼玉県立三郷北高等学校第２学年】

【単 元　名】生涯の経済生活を見通す　Ｃ（１）生活における経済の計画
【単元目標】経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解し、グループワーク等を通じて消費者として社会に貢献する力を養う。

時間	単元の指導計画 「消費者としての“働き方”を考える」	
	家庭科	関連付けた他教科等
1	ライフプランを実現するための費用	
2	お金について知る意義	
3	シミュレーターから働き方を考える（正規・非正規）	
4～6	資産の増やし方	
7.8	社会保障 家計と国民・国際経済	公共
9	人生の幸せについて考えてみよう	
10	ブライト500企業・経営者講話	
11～13	企業の悩み解決グループワーク、発表	公共

家庭科
第11～13時
「企業の悩み解決グループ発表」
授業の概要

＜概要＞
・第10時で講話をいただいた企業５社が挙げた高校生に解決してもらいたい企業の悩みについて、４～５人のグループで解決のためのアイデアを議論し、提案した
・提案にあたり、企業の特徴等をタブレットで調べ、自分たちの消費行動と照らし合わせて考えた。その上で、企業にとっても消費者にとっても有益な内容を考えてスライド資料にまとめ、発表した
なお、その内容は後日、当該企業にフィードバックした

＜指導上の工夫＞
○消費生活･消費行動に関する深い理解や態度に結び付く学習活動
・働くことの意義や社会とのつながり及び自分のライフプラン等について考えることによって、高校生である自分も消費者であることを意識させ、自身の消費活動が社会につながっていることを自覚できるように工夫した
・生徒が自由な発想でアイデアを出し合い、わかりやすい発表や説明ができるよう、グループ活動を通して協働的に取り組めるように工夫した
○家庭科と他教科等との連携
・公共　「Ｂ　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」
　ア（ｳ）職業選択，雇用と労働問題

専門家や関係諸機関等との連携･協働
・生徒の実態に合わせたプログラム作成のために、アクサ生命並びに企業経営者と複数回の打ち合わせを行った
・各クラス単位でアクサ生命や企業経営者の講話が直接聴き、企業の問題を自分事として考えられるように、細かなスケジュールを設定した

【単元評価】
【知識･技能】･生活における経済の現状を理解している　･生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解している
【思考･判断･表現】･生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、社会保障制度などと関連付けて工夫することができる
【主体的に取り組む態度】･様々な人々と協働し、生活における経済の計画について課題解決に主体的に取り組んでいる　･消費者としての権利と責任を果たすために、勤労の意義や価値について考え、工夫して生活に生かそうしている

④取組の成果や効果･課題

消費をするために収入が必要だが、授業前は勤労に対してネガティブなイメージを持つ生徒が多かった。しかし授業後に実施したアンケートで今回のプログラムが「今後の進路や仕事選びに役立ちそうか」という質問に対し、97%の生徒が「そう思う」と回答した。働くことは社会貢献の１つであることに気づき、進路学習への取り組み方に変化が見られたと感想を答えた生徒が複数いた。また、保護者や身近な人の仕事や働き方に興味を持つようになり、会話のきっかけになったと答えた生徒もいた。特に経営者による講話を一斉授業ではなく各教室で実施できたことにより、生徒がより自分事として捉えられたと考えている。グループ活動を通して、生活者の視点から社会への関わりやお金の価値について生徒自身が考えることができた。

今回のプログラムは学校だけで設定することは難しく、アクサ生命と協働することによって実現することができた。事前打ち合わせや企業経営者への説明会の実施など、事前準備に時間を要することが課題であった。